

会議録

会議の名称	次期広域最終処分場整備基本計画内容に関する住民説明会
開催日時	令和7年10月28日（火） 18:30～20:00
開催場所	美郷町西郷ニューホープセンター大会議室
出席者	<p>参加者46名</p> <p>説明者</p> <p>日向東臼杵広域連合長代理 黒木副長 美郷町町民生活課 黒田課長、中田主幹 日向市市民環境部環境政策課 渡部課長、奥原課長補佐、東村課長補佐 諸塚村住民生活課 田丸課長 椎葉村税務住民課 黒木課長、椎葉主幹 日向東臼杵広域連合事務局 黒木局長、上杉局長補佐、吉玉係長、 黒木主査、長友主査、吉田主任主事 (株)建設技術研究所 松岡部長、平川主幹、和田主任</p> <p>計64名</p>
説明内容	次期広域最終処分場整備基本計画内容
会議資料の名称及び内容	資料のとおり
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ（日向東臼杵広域連合長代理日向東臼杵広域連合連合副長）</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 基本計画内容の説明（進行説明：日向東臼杵広域連合 業務第一係 吉玉係長） （説明内容については、ホームページに掲載の次の資料よりご確認いただけます。）</p>	

－資料－

日向東臼杵広域連合 次期広域最終処分場整備事業の概要①

日向東臼杵広域連合 次期広域最終処分場基本計画の概要②

建設候補地施設配置計画図

被覆型最終処分場の施設配置事例

スライド説明資料

5 質疑応答

司 会	説明が終わりましたので、質疑・ご意見がございましたら、お願いします。
参加者 A	処分場には2通りあるが、これは安定型か、管理型か。記載が無いので、分からない。
事務局	こちらについては、管理型の処分場です。よろしいでしょうか。
参加者 A	はい。
司 会	他にありませんでしょうか。
参加者 B	<p>はい。私は、西郷の和田地区(の住民)である。和田地区も、この3つの候補地の内の一つであった。地区説明会では、集落から北西の山の下の方(処分場)を予定していると説明があった。和田集落内に約十数町の田んぼがあり、農家の方が、汚水が流れ込む(計画の)川の水を田んぼに引いているため、強く反対した。それに対して、今説明いただいたような、安全性などの説明は無かったが、それであっさり引いて、もう和田地区は諦めて、いつの間にか小田地区に候補地が決定した、と伺った所である。小田地区と比較した場合、安全性では和田地区の方が適地であったのではないかと今、思ったところである。少し長くなるかもしれないが、私が言いたいことをまとめてきたので、お聞きいただきたい。</p> <p>まず、広域連合事務局の局長さん以下、職員の方々は、今進めている建設予定地が適地であると判断して建設計画を進めているのか、お聞きしたいと思う。私はこの小田地区での建設は、100%適地ではないと考えている。その理由は、一つは、建設予定地周辺には数十メートル以内に民家があり、その付近には特産品の店舗もあり、地域の方々が日常の生活を営んでいること。つまり、特に小川吐地区、小田地区、仮迫地区、小川地区民の生活全般があるということ。二つ目は、建設予定地のすぐ前は西郷、北郷、諸塚、椎葉の玄関口として、幹線道路の国道327号や南郷から西郷に抜けた国道388号が町道小川吐線に繋がり、頻繁に人と車の往来があること。また、耳川と田代川が予定地と並行して流れている。建設予定地は大内原のふもとであり、下流では、ダム湖を活用した観光施設や温泉施設が整備されている。観光客も多く、ダム湖では、地元の方がウェイクボード事業も営んでいる。このような環境の中で、広域連合事務局の方々が、この建設予定地付近に居住して生活していると仮定した場合、この地に最終処分場を建設することが、適地であると思うかお聞きしたい。</p>

次に、予定地には数多くの地権者がいると思う。地権者一人一人、特に、小田地区、小川吐地区、仮迫地区、小川地区の地権者の方々に対し、所有権も含めて具体的な説明を行い、了解を得て計画を進めているのか伺いたい。私が聞いた限りでは、具体的な説明や了解を取っていないように思う。建設予定地付近の川沿いに住んでいる高齢女性で、建設予定地内に土地を所有している方に説明したところ、「私は何も知らない。なぜそのような施設がそこにできるのか」と不思議そうに話していた。その方は、「若い頃は川の向かい、つまり予定地に人も住んでいたし、私の家も田代川にパイプを渡して生活用水を引いて生活していた。この歳になって、なぜそのような施設が計画されているのか」と、とても心配していた。つまり、この建設予定地は元々民家や田んぼがあり、人々が生活していた生活圏域内であるため、ごみの最終処分場としては100%適地ではないと判断すべきで、私はこの地に建設することに反対する。

最後に、十数年前から、この処分場建設は、門川町を次の候補地として余裕を持って進めてきたと承知している。なぜ10年以上経過した今、急きょ西郷に変更になったのか、詳しい説明をお願いしたい。また、広域連合の市町村全体のごみや処分の割合も、日向市が約70%、門川町が約20%、美郷町が約7%、椎葉・諸塚が残りの3%なので、順番からしても、門川町の協力を得ても良いのではないかと考えている。どうしてもやむを得ず西郷になる場合は、もう少し時間をかけて手順を踏み、住民に影響の少ない適地を選定するべきである。特にこのような施設は生活圏外に整備するのが基本的な考えである。山間部だから予定地がすぐに確保できるという安易な考えで進めているなら改めるべきである。山間部の地域は山のふもとが生活圏域なので、このような施設の適地を探すのは厳しいのではないかと考える。

以上、私の意見として述べさせていただいた。

事務局
吉玉係長

はい、ありがとうございます。反対であるとの貴重なご意見をいただきましたが、質問の数が多かったため、一つずつ確認をしながら進めさせていただく形でよろしいでしょうか。

参加者 B
事務局
吉玉係長

はい。

まず、連合事務局職員が、今の候補地が適切な場所であると判断しているのか、というご質問に関してですが、こちらについては適地と考えています。

2つ目の、地権者の方々から了解を得て現在進めているのか、というご質問であります。現在、小田、小川、仮迫、その他にも町外の方もいらっしゃいますが、この方々に調査に関する承諾書をいただいています。一部、まだ接触をさせていただいている方もいらっしゃいますが、地権者の大半の方からは、承諾を得ております。また、説明に関しましては、遠方の方はどうしても文書や電話でのやりとりという形になりますが、職員が自宅に伺って、ご本人さん、若しくは、ご本人さんが他の方

にも聞いて欲しいといったことがあれば、その方を含めた形でお話をさせていただいています。その中で、調査に関する承諾をいただいている次第であります。残念ながら、まだ接触中の方に関しては、今後も引き続き、丁寧に説明をさせていただきながら、ご理解いただけるように真摯に対応させていただきたいと考えております。

それから、門川町の方に以前建てるという話だったが、現在、美郷町になっているというご質問で、この候補地を選定する際に、34箇所の候補地から、最終的に3候補地まで絞りました。門川町の方も最終候補地には入っております。ですので、門川町を外した訳ではありません。様々な条件に合致する所を選定した上で、一つ一つ、大学の教授、それからNPO法人、地元の代表者の方々、そういった方で組織されました用地選定検討委員会を令和3年度から期間を重ね、年に複数回実施しながら、内容については検討を重ねてまいりました。また、地元の方々、最終候補地も含めて、そういった候補地の方々の所にもお伺いして、先ほどのご質問にもありましたとおり、和田若宮地区でも住民説明会を行い、ご理解が得られるような形で進めてまいりました。その中で最終的な選定を検討し、一番適した所が、今回、花水流の方になりました。当然、花水流区の方々にもこのことについては、しっかりと説明をした上で、基本同意をいただいております。

それから、水の安全性の確保というものは絶対的なものだと考えております。ですので、こちらの西郷の皆さん、その隣の東郷の方、日向市民、耳川に関する漁業関係者の方を含め、そういった方々に影響が出ないように最善を尽くすことが私たちの役割だと考えております。そういったことを考えて、施設を造る者としての責務として、しっかりその責務を果たしていきたいと思っております。

事務局

黒木局長

事務局長の黒木であります。貴重なご意見、本当にありがとうございます。中々、言いづらい点も含んでいたと理解をしております。私も4月に着任し、分からない状態でありましたが、現地に行かせていただき、地元の方とも話をさせていただいて、事務局からも経緯を聞いて、内容を精査してきたところであります。

内容につきましては、先程、担当係長からありましたが、時間と手順をしっかりとかけて、精査に精査を重ねた上で、現在地を選定しております。これは、組織として広域連合として決定したという風に自信を持って決めてきたということでもあります。地元の中では、環境も含めてご心配はあると思います。当然、いわゆる迷惑施設でありますので、できれば自分の近くには造ってほしくないというのが本音のところではあると思いますが、日向入郷8万の人口圏域を抱える中で、日向市の処分場が満杯であり、次を造らないといけない、これは必須でありますので、このことについて、検討しながら現在進めております。これらについては、今回、美郷町に造り、満杯になればまた次を探さなければなりません。それはずっと続いてまいります。それらについては、浸出水をきちんと処理して、今、日向市の方でもされています

が、今以上の高度な処理をしてきれいになって返す、ということで、環境に負荷を与えない形でやってまいります。そこは責任を持って対応していきたいと思っています。埋め立て、それから処理水の管理、跡地利用についても関与し、今後終わった後どうするのか、例えば日向の方でグリーンパークなどが昔、埋め立てした所を公園にしていますが、例えばそういった形で、最終的には約30年以上かかる話かもしれませんが、候補地を地元に戻していくような形で、永遠にこの作業は続いてまいります。

広域連合は、1市2町2村で構成しておりますが、単独の日向市だけ、美郷町だけでは困難なことなので、そこを運命共同体として、広域連合を結成して進めております。そちらで皆さんのご負担もいただきながら、責任を持って進めてまいりたいと思いますので、自分が生活している、なおかつ皆さんの意見をいろいろお聞きする立場にある方であると思いますので、何卒、ご理解をいただけたらと思います。細かい質問に答えられていない所もありますが、考え方としてはそういうことであります。よろしくお願いいたします。

司 会
参加者 B

よろしかったでしょうか。

昨年の12月23日に、私とその土地所有者である地元の方二人と、広域連合の事務局に行って、こういう話をさせていただきました。広域連合長、市長ですが、市長に直接話そうと思ったが、市長は事務局に行って話してほしいということで、事務局で話をしたが、先程言ったように、十数年前から門川町で進めていたものを満杯が近づいたということで、急きょ、今になって西郷に造るというのは、それまでの事務の進め方や計画の進め方が私はおかしかったのではないと思う。最初にこのような理由で門川町が無理なので、西郷にということで、時間をもう少しかけて選定すべきではなかったのかと思う。もう満杯が近づいたということで、1、2年で西郷に決めようとしていることに、私はあまり良い思いはしない。そういったことが、どうだったのかということで、説明を詳しく聞かせていただきたい。以上。

事務局
黒木局長

時間の都合もあるので、簡単に説明させていただきますと、今までの経緯については、門川の方で用地面積不足やいろいろな地権者の方との交渉というのが含まれていると思います。詳しいことは、広域連合のホームページに詳しく記載があるので、そちらをご覧くださいと思います。

今までの経緯に関しては、広域連合議会はもちろん、それから各首長が入っている正副連合長会議で全て、大事な局面については、その時の責任者の方にお伺いして、審議をしながら結論を出していることになります。ですので、結果的にはそういう審議、正しいプロセスを経て、時間をかけて丁寧に正しく進めている、ということですので、是非ご理解いただきたいと思います。

司 会

よろしいですか。他に何かご質問等ありませんでしょうか。無いようですので、次に「その他」について事務局よりお伝えします。

6 その他

司 会

アンケートにつきましては冒頭でもお伝えしましたとおり、記入後、帰られる際に後方のアンケート回収ボックスに入れていただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、会次第の右下に記載のFAX番号へのFAX，また、アンケートを写真に撮ってメールで添付送信の手法でもかまいません。一週間後の11月4日までの送信をお願いいたします。

(※アンケート調査結果については、広域連合ホームページに掲載)

本日はお忙しい中、説明会にご参加いただき、誠にありがとうございました。以上で、「次期広域最終処分場整備基本計画内容に関する住民説明会」を閉会いたします。

～ 閉 会 ～